魅力ある学校づくり

前香港日本人学校大埔校　校長
広島県広島市立五日市観音西小学校　校長　浅　木　賢　介

キーワード：学校経営，国際教育，母国語と英語教育

１．はじめに

帰国して思うことは日本では，我が子を虐待したり，育児放棄があったり，子育てをしない家庭が増えたりしている状況をたくさん聴きます。私が勤務していました，中国，香港では，法律の罰則規定も厳しいこともあるのでしょうか，本当に子どもを可愛がり，また熱心に勉強させる親が多かったように思います。特に，一人っ子政策の中国では格差はありますが，親は期待を持って勉強させていたし，子どもも期待に応えようと本当によく勉強していたと思います。

それに比べ，日本の児童生徒の学習意欲や知的探究心，学ぶ姿勢に課題があるように思います。日本の公立学校では，少人数指導，いじめ不登校対応など学力向上のためにいろんな措置が講じられてはいますが，それでも学ぶ姿勢を見せない子ども達が多く，学力格差は拡大しているように感じます。今後，益々発展する活気に満ち溢れる中国・香港の状況と反対に経済悪化と閉塞感ただよう日本は，何とも病んでいる感がします。香港で暮らす日本人約２万人，必ずしも経済的に安定した家庭ばかりではありませんが，どこの家庭でも子育てには危機意識をもって国内以上に一生懸命であります。これが，子どもに伝わりしっかりした家庭教育になっているようです。学校教育も大事ではありますが，家庭教育が何よりの基盤であることをことさら強く感じました。

２．創意工夫した教育課程

在外教育施設での教育はある面，困難さもありますが，自分達で教材開発したり，地域素材を生かした手作り教材づくりが結構楽しかったりするもので，特に，理科や社会科・生活科など教科書どおりに指導できない苦労もありますが楽しさもあります。幸いにも私が勤務した香港日本人学校は日本以上に自由で物は何でも揃いました。教材教具から教育機器，運動場から体育施設等申し分ない教育環境の中で児童の教育に当たることができました。教育委員会がないので，その点，先生方の創意工夫が大きく生かせるとともに各々の主体性にかかってきます。その意味から，校長も同じで確固たる教育ビジョンと実行力・組織力が求められました。

香港は中国（中華人民共和国）の行政特区でイギリスから返還されて今年で14年目になり，永くイギリスの植民地であったことからも，公用語は広東語（北京語とは違う）ですが，ほとんどの人が英語が話せて通じる。そんなこともあって，日本人学校では，英会話に力を入れています。１年生から全学年，習熟度別に，毎日30分，ネイティブスピーカー７名のスタッフによる会話中心の授業が展開されています。

また，保護者の英語教育への関心は高く，３年生から，図工イマージョン教育としてTT体制で英語を使った図工科を実施しています。また，図工や水泳等の準備や後始末が必要な教科は60分，繰り返しのドリルや読書などの時間は15分などとし，15分を１ユニットとするモジュール制の時間割で実施しています。このような弾力的な時間割は授業時間の計算は大変ですが効果的です。

なお，このモジュール制を実施することで併設する国際学級の児童と日常的な交流活動が盛んで，まさに私が勤務した学校は「ジャパニーズ・インターナショナル・スクール・タイポ」です。広島市が国際文化平和都市を標榜するなら広島の公立学校の中にもこんな国際学級が併設されても良いかなとも思いました。

もう１つ，特色として挙げるとするならば，温暖な気候と素晴らしい施設から年間通して毎週１時間（60分）水泳を実施していることです。毎週１時間の水泳指導は，体力づくりだけでなく頑張り抜く強い気持ちも育んでいると感じています。

土地が狭い香港では，本校の体育施設，プール，人工芝の運動場，冷房の効く体育館等は，児童が帰った後，民間会社に委託してスポーツ教室に活用されています。これもまた，経営の面からも児童の放課後スポーツ活動の面でも功を奏しています。

【現地校交流会でドラゴンダンスを披露するメモリアル校】

３．母国語教育と英語教育

香港ではイギリスの植民地であった歴史的背景から英語教育が重視されてきました。小学校一年生から英語の授業が取り入れられていましたが，中国への返還の一年後，1998年これまで英語で授業をしていた中学校の約400校のうち110校だけに継続して英語教育をおこなうことを許可し，それ以外は母国語である広東語による授業に切り替えられました。現在は英語と中国語を書くことが出来，英語・広東語のほかに中国の公用語である普通語（北京語）が話せるという「両文三語」の言語教育制度が推進されています。

しかし，実際には香港に根強く残る「英語が堪能＝エリート」との社会通念から，母国語教育を採用した中学校を敬遠する傾向が強くなってきたようで，特に中産階級の家庭では将来の進学・就職を考えて，子どもを海外の学校や，インター校に進学させる傾向が強まっています。

邦人社会でもその傾向は顕著で，香港日本人社会だけでは無いように聞きます。

昨年のデーターですが，香港に在留する日本人は，約２万人であり，そのうち小中学校に在籍する児童生徒数は1622人，日本人学校に通うもの1037人，インター校に通うもの585名，過去のデーターを見ると2004年度が550人，2006年度が571人，2008年度が627人と，インター校に通う児童生徒が増えています。

インター校に通わせている保護者にアンケートをとった結果，85％が英語で教育がなされるから，65％が国際性が身につくから，せっかく外国に住んでいるから，将来も英語圏で生活するからというのが主な理由です。ここで注意したいことはインター校は「英語を学ぶ学校」ではなく，「英語で勉強する学校」であるということで，インター校に入れば英語が話せるようになる，という錯覚を起こしてはいけないと思います。

香港日本人学校の学校評価アンケートからも，保護者が学校への望むこととして，断然トップの82％が英語教育の充実が挙げられています。現地語の指導より英会話の上達が強く望まれています。

さて，国際結婚が進む中，また，将来は日本へ帰国する，しない，によっても母国語を何にするかが大きな問題であります。言語環境の混乱で英語も日本語も中途半端にしか使えない子どもを作ってはいけないと感じました。

これからの国際社会を生きる子ども達には，是非とも英語能力を高めてほしいと思います。しかし，一方では，香港がイギリスから中国に返還されたとき，母国語（広東語）による指導に力を入れたり，一昨年，インドネシアで学校教育の中で一部の教科を英語による指導することに反対するデモが起きたりすることを思えば，どの国も自国の言語と文化に誇りを持ちながらもグローバル社会への在り方を模索していると感じました。

我々も日本人でありながら，美しい日本語を正しく使えていない現状があります。また，相手から問われた時，自らの言葉として主体的に意見が述べられない児童生徒が多くなっている気がします。母国語（日本語）をないがしろにして外国語だけを重視するのはバランスに欠けると思います。

４．国際人を語るに値する日々の生活

さて，英語（外国語）が話せるから国際人でしょうか？　外国で暮らしたから国際人でしょうか？　海外の日本人学校の研究主題を見ると多くの学校が，「世界に羽ばたく国際人の育成」を掲げています。いや，国内でも国際理解のテーマは多くの学校が「国際人の育成」を掲げています。

語学は勉強すればどこででも習得できますが，海外で暮らさなければ身につかないセンスみたいなものはあります。自分の立場を自覚し，その立場をわきまえた振舞いや，言葉遣いをすることは国際社会では大切なことです。

そもそも，国際人を語るに大切なことは，お互いを理解し，相手の立場に立って行動が出来る心の教育にほかならないと思います。したがって，これまで学校教育で大切にしてきた，①身の回り全ての人権を尊ぶこと。②誰に対しても優しく思いやりをもって接すること。③他人に流されるのではなく自分の考えをしっかり持つこと。④心身ともに健康でより良い生活を目指すこと。⑤何事にも真剣に真面目に取り組むこと。⑥たくさんの友達を作り友達と仲良くすること。⑦いつでも，どこでも，誰にでも，気持ちの良い挨拶が出来ること。⑧問題が起きた場合，話し合いにより解決しようとすること。⑨乱暴な言葉や暴力を振るうことは絶対しないこと。⑩日常の生活をよりよい生き方に向けた努力を忘れないこと。そして，⑪学習した外国語・日本語を駆使して相手とコミニュケーションが図れること。こうした日常の学校生活や家庭生活こそが，国際人を語るに値する日々の生活であると思います。その意味からも，美しい日本語を正しく使い豊かに表現することを，国内であろう海外であろうとも大事にすることが大切であると思います。

日本語を流暢に話す香港人の友達に言わせると，日本語には礼儀を身につけさせる力があると言います。「ありがとう」はどの国にもありますが，「おかげさま」「すみません」「お世話になります」「お願いします」「お疲れ様」などの言葉と同時に頭を下げたり，会釈をしたりして，相手を気遣う礼儀を身につけさせます。このように日本語は，外国語に無い素晴らしい文化があります。

美しい言葉は，美しい行為を生みます。頭を下げたり，キチンと座ったり，勝手な振舞いを嫌い，我慢する行為やつつしみ深い行為は日本人の良さでもあります。外国人に言わせると，日本人は真面目で誠実，大変親切で勤勉であると言います。それは，日本の伝統や文化が育んだ高い倫理観，高い道徳性であると思います。したがって，子どもの徳性を育むためには，言語環境を整えることが大事であり，美しい日本語を正しく丁寧に，豊かに使うことは人を傷つけません。世界の平和を希求する我々は美しい日本語を正しく丁寧に使うことから指導すべきであると思います。

５．終わりに

子どもは国の宝，世界の宝，だとつくづく思います。今から23年前，ブラジルのリオデジャネイロ日本人学校に勤務しましたが，その時の教え子に偶然にも香港で２人会いました。素晴らしく立派になって，世界を相手に活躍していました。また，ブラジルで剣道を教えましたが，その時の現地の若者（当時20歳）でしたが，今は香港で会社の社長として活躍していました。全く偶然の出会い，鳥肌の立つ感動と互いの仕事を褒め合ったものです。

海外で学ぶ子ども達は，ふたつの意味で貴重な体験をしています。ひとつは，海外で勉強することで，世界には色々な国の人々，言葉，生活，文化があることを身をもって知ることであり，もうひとつは，日本人学校で学ぶことで，日本の北海道から沖縄までの各地から集まった優秀な先生方と触れ合うことができるからです。世界への視野と日本各地への理解が将来，必ずや国際社会を生きていくうえで役に立つものだと信じています。

私は，広島からの派遣教員であります。私は，赴任が決定してから，県内の平和施設を改めて見て回りました（原爆ドーム，原爆資料館，大和ミュージアム，大久野島毒ガス工場，陸奥記念館　江田島海軍兵学校跡，等々）。それは，香港・中国と広島は無縁ではないし，世界が平和でなければ，邦人社会も日本人学校も存在しない訳であり，広島の者として是非とも，平和の大切さと戦争の悲惨さ，そして，世界の平和と核兵器の廃絶について述べ，

原爆資料館を是非見学してほしいと伝えたかったのであります。

調べていますと，広島（宇品の港）から，香港，青島，大連，天津，上海などの港に多くの日本の兵隊を運んだ記録がありました。また，中国国内に残る，日清戦争，日露戦争，日中戦争，太平洋戦争の傷跡を見て回りました。「坂の上の雲」（司馬遼太郎）の舞台となった，大連の旅順口，二〇三高地を見学したことを，今度は，広島の子ども達にも教えてあげようと思っています。

最後に，派遣２年目の秋に数学者で大道芸人でもある，ピーター・フランクルさんに学校に来てもらったときのことです。「私は，日本に来たとき素晴らしいものに出会いました。それは，自然，建物，景色，それだけではない，そんなものは，世界中のあっちこっちに沢山あります。‥‥‥日本の素晴らしいもの，それは，日本人です。」と言われました。「日本人に魅せられました。日本人には優しさがありました」と，私は，香港でも戦争の傷跡をみましたが，香港人に優しくしていただいたことに心から嬉しく思っています。これから，人に優しい日本人・国際人の育成に少しでも役に立ちたいと思います。

【アジアンフェスティバルで和太鼓を披露する本校児童】